

住まい事始め「廊下は、いる、いない！」

その1ー昔の廊下とプライバシー

家づくりにあたって、廊下について考えてみましょう。

住まいの中で廊下の役割って？

玄関に入ると目の前に奥に向かって薄暗い細長い空間、廊下が続いています。その脇に沿って階段があったり、家の道具が所狭しと置かれてたりして、廊下は単なる通路、物置になっているお宅を見受けます。

玄関からリビングへ、個室へと進む行為を家人の「動線」として考えます。そのスペースが廊下として構成されることとなります。その理由は、廊下から各室へ直接出入りできる利点があることによるのですが、住まいの規模や家族構成、そして建設資金などによりこのスペースを設けるかどうかの判断になってきます。

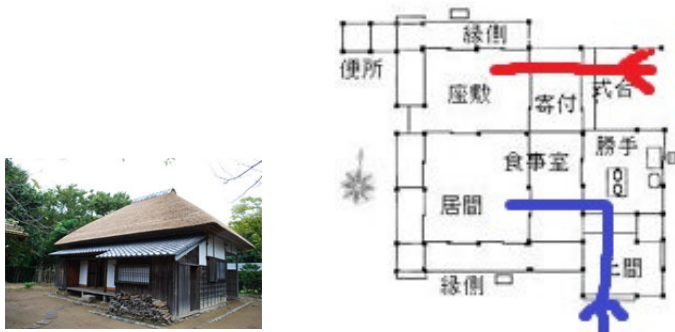
過去の住まいを見てみましょう。

大名屋敷では、公私の機能があり、明確に表と裏の動線としての廊下が作られています。



佐倉市 旧佐倉藩主邸宅. 旧堀田邸

下級武士屋敷 居間からトイレに行くには座敷を通る動線となるが？



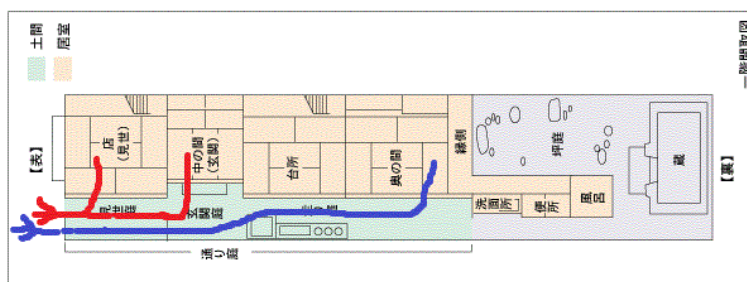
佐倉市 武家屋敷

農家の古民家 玄関なし、家人は土間から出入りし外にあるトイレと風呂へ



浦和くらしの博物館民家園

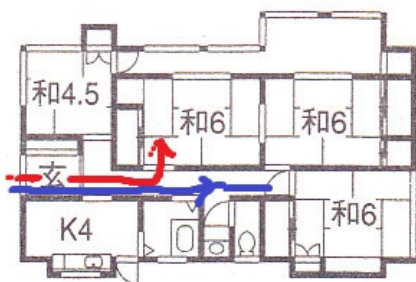
町屋 細長い敷地割りのため、建物内に通り庭という土間としての廊下を設けている。



京都町屋資料館サイトより

昭和の家 中廊下式

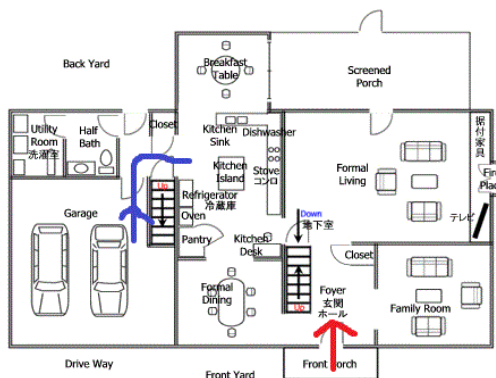
玄関→廊下からどの部屋へにも出入りできる機能的・合理性を追求した昭和時代の間取り。



平屋が人気！・・・のサイトより

北アメリカの住宅

この家は、ガレージやポーチの面積を含まずで延べ100坪ですが廊下がありません。



北アメリカの一戸建ての間取りのサイトより (外観と間取りは違っています)

こうしてみると時代や地域、そして規模などによって廊下の在り様はいろいろあり面白いですね。

この廊下のスペースは、単にその家に住む人たちのルートとしての動線ではなく、住まいという空間を家族のパブリックとプライベートの度合い関係で、動線をどう構成するかを判断することになります。

リビングは家族それぞれが自由に入出入りできてパブリック性が高く、一方個室は一番プライバシー性が高くパブリック性は低い空間ということになります。この考え方は、家族でも個人の生活を尊重するという事です。しかし子供たちについては成長過程でプライバシーのことを考えることになります。

日本の場合、プライバシーに対する厳しさは薄い傾向にあります。その一つに、小学校低学年までは家族一緒にオープンに生活をし、その後は個室を与えることが一般的になっています。

過去や動線、プライバシーの次は？今日の住宅事情ではどうなのか、ですね。続く